



剪定枝リサイクルプラントにて 園中沢宝樹園 中沢新一

田辺さんの病氣療養により7月よりプラント作業をやらせていただいています。実際に作業を行なっていることは、一時期より良くなったもののいまだに剪定枝の中にビニール紐、タバコ、軍手、ビニールポット、空き缶などが雑じっている事です。今までも例会時や会社へのFAXなどで注意してきましたが、なくなりません。持ち込みの際に「ゴミを捨てに行く。」と言う方もいます。

今一度、剪定枝は、ゴミではなくチップの原材料という認識を、各従業員に喚起してほしいものと思います。

いつもより早く過ぎた夏

園銀山造園 田中祐樹

今年の夏は、台風の影響もありなかなか晴れの日が続く日が少なかった。そんな中で今年、技能試験を受けた。当日は台風の影響でフェーン現象の為気温三十度を超える猛暑となった。

今まで三十度を超えることなく練習をしてきた為、相当堪えるものがあった。2Lの水筒を飲み干してもまだ足りないくらいだった。試験後も熱中症に罹ったかのように、身体はだるく、頭がいたい状態がしばらく続き、試験日が終わった。

今年の夏は、技能試験一色だった。(無事、2級合格)



夏期剪定講習会に参加して

グリーン産業園長岡支店 岡喜一

夏期における剪定法及び、剪定時での安全管理について学びました。今回ポイントになった事は、高所作業における安全と、夏場の剪定は、緑陰部を設けて、形姿剪定を重要視し行なうという2点について、的確に解り易く教えていただきました。普段、私は主に現場管理の立場で、実施工する機会はほとんどありません。実際に作業して見ると、作業されている方々の大変さが感じ取ることが出来たことも、非常に勉強になりました。



一級造園技能士を合格して

園鈴木造園 川上正樹

入社して六年目を数える今年の夏、造園技能士試験を受験しました。そもそも、造園の世界に入ったきっかけは、まだ私が親のすねをかじって遊びほうけていた頃、初夏の爽やかな陽射しの中、もくもくと松刈りをする庭師、パチパチと小気味良いリズムを刻み、その浮世離れした姿に「これは俺にむいているかもしれん」と思ったものでした。

しかし入社して3日後には土を掘り、石を転がし、まさに地に這いつくばる仕事だと思ひ知るのです。体力的なことさることながら、その奥の深さに困惑したものです。ことに日本庭園においての「答えのあつて無い世界」庭園がなぜ自然の素材によって発生したのか、そしてなぜ自然の素材に今日まで依存しているのか、なぜ依存しなければならないほどに美しいのか。そしてその石を組む事によってなぜ美が成立するのか…。答えは自然の中に有り、そして自然こそが神であるという精神世界。基本的なものをそっちのけに、珍しいものや変わったものを色々やりたがる私でしたが、この一級技能士合格を期に日本の美、自然の美にもう一度立ち戻ってみようと思います。



編集 広川

山河花園 (三〇)

●十月二十三日は、穏やかな土曜日でした。文化祭や、収穫感謝祭などが各地で催され、行事が無事一段落し、反省会のほっとしたひと時でした。

突然、目の前の仲間達や、テーブル、グラスやお皿が、上下左右に大きく揺れだした。地震だ！ 大きいぞ！

あちこちで聞こえる悲鳴、建物がきしむ音、食器の割れる音・・・

中越地震に襲われた瞬間でした。

当時は、山古志村や川口町の様子など知る由も無く、ケガや火災に至らなかったのが、せめての救いでした。

●今年には災害の多い大変な年でした。

台風六号の吹き返しにより、若葉が傷つき千切られた多数の樹木。

記録的な大雨で、街や人命まで失った七・一三水害。

毎日毎日灌水作業に明け暮れた、暑い八月は、真夏日の記録までも更新しました。

同じコースから上陸し、大量の雨と暴風で暴れまくった大型台風の数々は、普段影響の少ない地域にも、深刻な被害をもたらしました。

被災された皆様の一日も早い復興をお祈りいたしますと共に、山河が、花園の如く、生き生きとよみがえる日の近いことを願ってやみません。

●嬉しい事もありました。

当協会の小林正夫顧問が緑綬褒章を受章されました。

緑化の推進に五十年間も努力され、見事地域に花を咲かせた功績に対する叙勲です。奥様共々、お祝いを申し上げます。

おめでとございました。